

第2章

施策マネジメントシートによる評価

まちづくりの基本目標 2

心豊かで輝く人と文化を育むまちづくり

1 学校教育の充実

第5期芽室町総合計画

政 策	2-1	豊かな心を育む人づくりと生涯にわたる学びの充実
施 策	└──	2-1-1 学校教育の充実
主 管 課	教育推進課	

2 社会教育の推進

第5期芽室町総合計画

政 策	2-1	豊かな心を育む人づくりと生涯にわたる学びの充実
施 策	└──	2-1-2 社会教育の推進[主管課]社会教育課
主 管 課	生涯学習課	

3 地域文化の振興

第5期芽室町総合計画

政 策	2-2	地域文化の形成とスポーツ環境の充実
施 策	└──	2-2-1 地域文化の振興
主 管 課	生涯学習課	

4 スポーツしやすい環境づくり

第5期芽室町総合計画

政 策	2-2	地域文化の形成とスポーツ環境の充実
施 策	└──	2-2-2 スポーツしやすい環境づくり
主 管 課	生涯学習課	

施策番号	2-1-1	施策名	学校教育の充実	基本目標	心豊かで輝く人と文化を育むまちづくり
		主管課	教育推進課	政策名	豊かな心を育む人づくりと生涯にわたる学びの充実
		施策関係課		課長名	坂口勝己
				内線	441

1. 施策の方針と成果指標

施策の方針		対象		意図			結果		
社会に開かれた教育課程を基軸として、地域とともにある学校づくりを推進するとともに幼保小、小中連携・一貫教育などを推進することにより、持続可能な社会の創り手の育成を目指します。		児童生徒		・確かな学力、豊かな心と健やかな体を育み、持続可能な社会の創り手となるための資質・能力を身につける			社会に出たときに自立できる児童生徒		
成果指標	説明	単位	策定時(基準値)	2023年度実績	2024年度実績	2025年度実績	2026年度実績	2026年度目標	
①「授業の内容がわかる」と回答した児童生徒の割合	全国学力・学習状況調査	%	72.9 (R3)	77.6				80.0	
②「自分にはよいところがある」と回答した児童生徒の割合	全国学力・学習状況調査	%	79.5 (R3)	84.8				80.0	
③「朝食を毎日食べている」と回答した児童生徒の割合	全国学力・学習状況調査	%	87.7 (R3)	92.3				90.0	
成果指標設定の考え方	成果指標の設定は、全国学力・学習状況調査の結果を採用し、①「豊かな学力」、②「豊かな心」、③「健やかな体」を育む上で、3つの指標を設定した。 目標値の設定は、各成果指標共に5%程度の上昇を目指し設定した。								

2. 施策の事業費

	策定時決算	2023年度決算	2024年度決算	2025年度決算	2026年度決算
施策事業費(千円)	1,049,599	934,372			

3. 施策の達成状況

(1) 施策の達成度とその考察				
①2023年度の成果評価 (基準年との比較)	☒ 成果は向上した ☐ 成果は変わらなかった ☐ 成果は低下した	想定される理由	指標①②は少人数学級編成、授業改善、不登校支援、ICT教育環境の整備など、個に応じた指導の充実やコミュニティ・スクールの推進、指標③は食育・食農教育の充実や家庭との連携が向上に結びついたと考えられる。	
②第5期総合計画後期実施計画(2026年度)の最終的な目標達成状況	☒ 現状の取組の延長で目標は達成できる	根拠(理由)	指標①②の目標達成に向け、少人数学級編成や習熟度別少人数指導、特別支援教育の充実、不登校支援システムの活用、ICT教育環境の整備など、誰一人取り残すことのない個に応じた学びの場の充実や、コミュニティ・スクールの推進を図っているが、これらの取組を一層推進し、指標①の目標達成と指標②の目標維持を図る。 指標③の目標達成に向け、栄養教諭・管理栄養士による全校の全学級を対象とした食育指導や食農教育の充実を図っているが、児童生徒の基本的な生活習慣の確立に向けた家庭との連携も一層推進し、目標の達成を図る。	
	☐ 現状の取組の延長で目標達成は難しいが、現行事業の見直しや新規事業の企画実施で目標達成は可能			
	☐ 事業の見直しや新規事業の企画実施をしても目標達成は難しい			
(2) 施策の成果評価に対する2023年度事務事業総括				
①施策の成果向上に対して貢献度が高かった事務事業	①児童生徒支援事業	②施策の成果向上に対して貢献度が低かった事務事業		
	②小学校(中学校)教材・教具支援事業			
	③学校給食管理運営事業			
	④コミュニティスクール運営事業			
③事務事業全体の振り返り(総括)	・「①」⇒町独自に令和5年度から小中学校全学年30人以下学級編成のため町独自で臨時教諭を配置したほか、特別支援教育の推進のための地域コーディネーターや教育活動指導助手、学校支援員を配置、更には、不登校支援システムを策定し個に応じた支援を推進した。 ・「②」⇒GIGAスクール構想推進のため教育DX推進員やICTヘルプデスクを設置し、ICT活用推進のための環境を整備した。 ・「③」⇒栄養教諭・管理栄養士による全校全学級の食育指導を実施すると共に、芽室産食材を活用した「めむろまるごと給食」の提供や「食農教育」の充実を進め、児童生徒の基本的な生活習慣の確立に向けた家庭との連携を推進した。 ・「④」⇒義務教育9年間の一貫性のある学習を推進するため、「小中一貫教育基本方針」を策定した。			

(3)「施策の方針」実現に対する進捗結果(計画策定時との比較)							
担当課 評価	少人数学級編成、特別支援教育、不登校支援、ICT教育環境の整備、医療的ケア児対応など、誰一人取り残すことのない個に応じた学びの場の充実やコミュニティ・スクールの推進を図ったことにより、計画策定時と比較し前進したと考える。		A	B	C	D	E
		進捗結果			○		

A:実現した

B:(後期実施計画策定時と比較して)大きく前進した

C:(後期実施計画策定時と比較して)前進した

D:(後期実施計画策定時と比較して)変わらない又は維持した

E:(後期実施計画策定時と比較して)後退した

4. 施策を取り巻く状況変化・住民意見等

施策を取り巻く状況と今後の予測	《施策を取り巻く状況》①学校施設などの老朽化対策や多様なニーズへの対応。(R1:学校施設等長寿命化計画策定)／②医療的ケア児を含む特別支援教育を必要とする児童生徒の増加への対応。(R2:地域コーディネーター複数配置)／③ICT教育推進への対応(R2:ICT整備・活用指針策定)／④登校に困難を抱える児童生徒の増加への対応(R3:不登校支援システム策定)／⑤部活動の地域移行への対応(R5:地域スポーツクラブ活動体制準備委員会設置) 《今後の予測》①小中学校配置計画更新(R8)を見据え、児童生徒数の減少を踏まえた計画的整備が必要。／②医療的ケア児支援法を踏まえた組織的対応方針の策定が必要。／③授業改善を前提としたICT活用指針の改定が必要。／④不登校支援システムに基づく、組織的取組の定着が必要。／⑤地域移行に向けた課題の抽出、移行方法等を協議する場が必要。(R6:部活動地域移行推進協議会設置)
この施策に対して住民・審議会・議会からどのような意見や要望が寄せられ、どのように改善したか。	・上美生地域保護者より、小中学校配置計画の次期改訂に向けた早期検討の要望がある。⇒R5:PTA役員との意見交換実施、R6:PTA会員との意見交換を予定・ ・不登校児童生徒への支援が必要である。⇒不登校支援システムに基づく組織的・計画的な取組や、相談体制強化を検討 ・不登校支援システムを推進する上で専門性が必要である。⇒システム策定時に有識者の意見を踏まえ策定したが、今後も継続しシステムを推進する。 ・部活動の地域移行については、慎重に取り組み必要がある。⇒R6:関係機関による協議会を設置し課題等の整理を行う。 ・朝食摂食率を向上させる必要がある。⇒年度間の変動もあるため継続的な取組を行う。

5. 施策の課題認識(現状の課題、第5期総合計画後期実施計画期間において新たにに取り組むべき課題)

①確かな学力の育成(児童生徒支援事業)⇒小中学校全学年における30人以下学級編制の実施等による習熟度別・少人数指導の推進、及び教育DX推進員の配置によるICT教育の推進、更には小中一貫教育の推進を図る。／②豊かな心の育成(児童生徒支援事業)⇒道徳教育や情操教育の充実、「いじめ防止基本方針」や「不登校支援システム」に基づく未然防止と早期発見・早期対応を図る。／③健やかな体の育成(学校健康診断実施事業・学校給食管理運営事業)⇒基本的な食習慣や生活習慣の確立のため、食育・食農教育、生活習慣病検査など、郷育や健康教育を推進する。／④特別なニーズに対応した教育の推進(児童生徒支援事業)⇒地域コーディネーターを中心とした発達支援システムの推進、及び、医療的ケア児支援法を踏まえた組織的支援体制の確立を図る。／⑤質の高い教育環境の整備(小学校・中学校教材・教具整備事業)⇒教育DX推進員の配置、AIドリルの導入などハード・ソフト・人材を一体としたICT環境の整備、部活動の地域移行に向け協議会を設置、更には、小中学校配置計画更新(R8)を見据え、児童生徒数の減少を踏まえた学校施設の計画的整備を進める。
--

6. 経営戦略会議(庁内評価)

評価	成果指標等から、前進したと評価する。	進捗結果	A	B	C	D	E
					○		

今後の取組に対する意見
 5に記載の取り組みを進めてください。

A: 実現した
 B: (後期実施計画策定時と比較して) 大きく前進した
 C: (後期実施計画策定時と比較して) 前進した
 D: (後期実施計画策定時と比較して) 変わらない又は維持した
 E: (後期実施計画策定時と比較して) 後退した

7. 総合計画審議会(外部評価)

評価	庁内評価同様に前進したと評価する。	進捗結果	A	B	C	D	E
					○		

今後の取組に対する意見
 ・成果指標について、地域との関係などの指標があったらいいのではないか
 ・広報誌などで、学校にしてお知らせをもつとすることで「地域とともにある学校」に繋がるのではないか
 ・全国学力テストの調査事項のうち、課題だと思う部分を違う学年に展開するのはどうか
 ・コミュニティスクールが地域に人が身近に感じられるように取り組んでほしい。
 ・ICTの充実が必要ではあるが、教師が子どもたちに向き合う時間を増やしてほしい
 ・GIGAスクールについて、心の問題がおそろになるのではないか
 ・貧困で食事ができない子どもがいることを踏まえた、夏休み期間の検討をしてほしい
 ・おやつ提供について、子どもの健康や成長の観点で各課と協議してほしい
 ・欠食児の芽室町の独自調査の検討をしてください

A: 実現した
 B: (後期実施計画策定時と比較して) 大きく前進した
 C: (後期実施計画策定時と比較して) 前進した
 D: (後期実施計画策定時と比較して) 変わらない又は維持した
 E: (後期実施計画策定時と比較して) 後退した

施策の外部評価(専門部会)意見への対応一覧

No.	施策番号	施策名	外部意見		担当課
5	2-1-1	学校教育の 充実	意見	「地域と共にある学校」ということから、広報誌などで町民や地域に（学校活動を）もっとPRをした方がいいのではないか。	教育推進課
			対応方針	① 対応する 2 検討する 3 対応不可	
			対応事業名	コミュニティ・スクール運営事業	
			対応内容	コミュニティ・スクール（CS）通信として活動内容等を町ホームページで情報発信しておりますが、学校と地域を繋ぐ観点から、広報誌面を通じた活動内容等の情報発信も行います。	

施策番号 2-1-2	施 策 名	社会教育の推進	基本目標	心豊かで輝く人と文化を育むまちづくり		
			政策名	豊かな心を育む人づくりと生涯にわたる学びの充実		
	主 管 課	生涯学習課	課長名	江崎 健一	内 線	451
	施策関係課	教育推進課				

1. 施策の方針と成果指標

施策の方針		対象	意図					結果	
学習機会や場の提供など学習環境の充実を図るとともに、自発的な取組への支援を図ります。		町民	・「いつでも」「どこでも」「だれでも」が学ぶことができる学習環境を整備する					町民一人ひとりが自ら進んで学習に取り組み、人と人とがふれあい、心豊かに充実した生涯を過ごせるまちづくり	
成果指標	説明	単位	策定時(基準値)	2023年度実績	2024年度実績	2025年度実績	2026年度実績	2026年度目標	
① 児童生徒の社会教育事業への参加者数	生涯学習課調べ	人	419 (R3)	291				1,190	
② 生涯学習の機会が充実していると思う町民の割合	住民意識調査	%	76.0	77.3				80.0	
③									
成果指標設定の考え方	①児童生徒数の減少率を考慮するも参加率を維持するもの。 ②前期計画で達成できなかった40%の目標値を超える評価を目指すもの。								

2. 施策の事業費

	策定時決算	2023年度決算	2024年度決算	2025年度決算	2026年度決算
施策事業費 (千円)	113,681	146,554			

3. 施策の達成状況

(1) 施策の達成度とその考察			
①2023年度の成果評価 (基準年との比較)	☒ 成果は向上した	想定される理由	①の指標は、読書感想文コンクールの応募数に大きく左右されており、近年学校で取り組まない学校が増えていることが要因であるが、それ以外の事業参加者は徐々にではあるが回復してきている。 ②については、公民館、図書館、ふるさと歴史館等で実施される各種講座等の事業に一定の理解がされているものとする。
	☐ 成果は変わらなかった		
	☐ 成果は低下した		
②第5期総合計画後期実施計画(2026年度)の最終的な目標達成状況	☐ 現状の取組の延長で目標は達成できる	根拠(理由)	新型コロナの5類移行に伴い、多くの事業が再開されたところであり、各種事業の参加も増えているところである。 ①の参加人数については、読書感想文コンクールの影響が大であり、それを除くと徐々に増えている状況。 5年振りに再開したトレーシーへの中学生訪問団の派遣は、異文化理解とお互いを尊重し合う心を育む等、教育効果が高いものである。 ジモト大学やコミュニティ・スクール事業等、町民を巻き込んで実施する事業を推進することは、まちづくりの一翼として貢献しているものとする。
	☒ 現状の取組の延長で目標達成は難しいが、現行事業の見直しや新規事業の企画実施で目標達成は可能		
	☐ 事業の見直しや新規事業の企画実施をしても目標達成は難しい		
(2) 施策の成果評価に対する2023年度事務事業総括			
①施策の成果向上に対して貢献度が高かった事務事業	少年教育活動運営事業	②施策の成果向上に対して貢献度が低かった事務事業	
	コミュニティスクール運営事業		
	中学生国際交流事業		
③事務事業全体の振り返り(総括)	新型コロナが5類移行し、事業がほぼ再開されたところである。 各種事業が再開された中で、各事業の点検、確認、必要な見直しに着手する必要性を感じる。 人財育成の観点からジモト大学の取り組みやコミュニティスクール事業が浸透してきたことは明るい材料であり、これらを推進することで、新たなコミュニティの創出にもつながるものとする。 ふるさと歴史館で茅室大火60年の特別展示には多くの来場者が来る等成果が見られ大変良かった		

(3)「施策の方針」実現に対する進捗結果(計画策定時との比較)							
担当課 評価	ジモト大学、コミュニティスクールの更なる推進をはかるとともに、新型コロナの5類移行を機に、これまで実施してこれなかった事業が再開するなど、学習機会の充実がはかられたものとする。		A	B	C	D	E
		進捗結果			○		

A: 実現した B: (後期実施計画策定時と比較して) 大きく前進した C: (後期実施計画策定時と比較して) 前進した
D: (後期実施計画策定時と比較して) 変わらない又は維持した E: (後期実施計画策定時と比較して) 後退した

4. 施策を取り巻く状況変化・住民意見等

施策を取り巻く状況と今後の予測	・生涯学習において「いつでも、どこでも、誰でも」が自由に学べる学習環境の整備 →電子図書の実施(R5.10～) →身障者にも配慮した図書機能 ・子ども会活動の減少 →子ども会の減少は、町内会活動にも通じるところがある。魅力創造課との連携も必要。 ・柏樹学園生の活性化 →R6年度学園生が前年を上回る等の明るい兆しはあるが、更なる活性化について検討していく ・コミュニティ・スクールやジモト大学事業の取組みによる地域コミュニティの活性化、地域教育力の向上 →学校支援ボランティアの増、ジモト大学で関わる大人が増加しており、新たなコミュニティにつながる
この施策に対して住民・審議会・議会からどのような意見や要望が寄せられ、どのように改善したか。	・コミュニティ・スクールの取組みについて、CS通信、学校支援ボランティアの活動事例の紹介等について冊子作成、配布し認知度向上に努めた。 ・子ども会活動の継続支援(単位会の減少や役員のなり手不足) ・ふるさと歴史館の活用(各種講座、特別展示等の実施) ・図書館機能の充実

5. 施策の課題認識(現状の課題、第5期総合計画後期実施計画期間において新たにに取り組むべき課題)

・社会教育推進中期計画(R5-R8)の着実な推進 →コミュニティ・スクールの充実。地域学校協働活動の全町的な取組みと学校運営への明確な位置づけ。地域コミュニティの活性化。 →ジモト大学事業による人財育成。人的ネットワーク形成。地域コミュニティの活性化。 →柏樹学園の充実(高齢者の学習機会、コミュニティの創出)。通園のための交通手段の確保。 →単位子ども会の減少～町内会事情につながるもの ・社会教育施設の有効活用と維持管理 →公民館機能の発揮(各種講座等の推進)。R7指定管理者選定。 →図書館機能の推進(電子図書の浸透、拡大) →ふるさと歴史館の運営と事業の充実(各種講座、体験会、特別展示等の実施)
--

6. 経営戦略会議(庁内評価)

評価	担当課評価同様に前進したと評価する。		A	B	C	D	E
		進捗結果			○		
今後の取組に対する意見	5に記載の取り組みを進めてください。	A: 実現した B: (後期実施計画策定時と比較して) 大きく前進した C: (後期実施計画策定時と比較して) 前進した D: (後期実施計画策定時と比較して) 変わらない又は維持した E: (後期実施計画策定時と比較して) 後退した					

7. 総合計画審議会(外部評価)

評価	庁内評価同様に前進したと評価する。		A	B	C	D	E
		進捗結果			○		
今後の取組に対する意見	・子どもたちに小さいころから芽室町の素晴らしさを知ってもらうためにも、課外活動(写生会)を行ったらどうか。 ・社会教育委員への取り組みの周知をしてほしい。 ・計画策定時にはない事業が増えていくため、成果指標の数値を%にするのはどうか。 ・民間主体での取り組みを、町が参加の促進(周知等)を図ってほしい。 ・大学生のまちづくりの研究への町として応援 ・電子書籍のAIの読み聞かせは、もっと温かみのある声がいい。	A: 実現した B: (後期実施計画策定時と比較して) 大きく前進した C: (後期実施計画策定時と比較して) 前進した D: (後期実施計画策定時と比較して) 変わらない又は維持した E: (後期実施計画策定時と比較して) 後退した					

施策番号 2-2-1	施策名 地域文化の振興	基本目標	心豊かで輝く人と文化を育むまちづくり		
		政策名	地域文化の形成とスポーツ環境の充実		
	主管課	生涯学習課	課長名	江崎 健一	内線 451
	施策関係課	環境土木課			

1. 施策の方針と成果指標

施策の方針		対象	意図					結果	
地域における文化活動への参加を促進するとともに、文化財などの収集・活用を進めます。		町民	・文化・芸術を身近に感じさせる地域づくり					心豊かに暮らせるまち	
成果指標	説明	単位	策定時(基準値)	2023年度実績	2024年度実績	2025年度実績	2026年度実績	2026年度目標	
① 文化活動がしやすいと感じる町民の割合	住民意識調査	%	73.0 (R3)	70.1				78.0	
② 文化活動への参加者数	生涯学習課調べ	人	1,172 (R3)	1,439				1,400	
③									
成果指標 設定の考え方	①前期計画で得られなかった評価(45%超)を目標値としたもの。 ②現状の加速する減少率を改善し下げ止まりの傾向を示すもの。								

2. 施策の事業費

	策定時決算	2023年度決算	2024年度決算	2025年度決算	2026年度決算
施策事業費（千円）	16,304	20,115			

3. 施策の達成状況

(1) 施策の達成度とその考察			
①2023年度 の成果評価 (基準年との比較)	☒ 成果は向上した ☐ 成果は変わらなかった ☐ 成果は低下した	想定される理由	新型コロナの5類移行もあり、文化活動が再開、活発化しているため、各種事業参加人数が増えていると想定される。
②第5期総合計画後期実施計画(2026年度)の最終的な目標達成状況	☐ 現状の取組の延長で目標は達成できる ☒ 現状の取組の延長で目標達成は難しいが、現行事業の見直しや新規事業の企画実施で目標達成は可能 ☐ 事業の見直しや新規事業の企画実施をしても目標達成は難しい	根拠(理由)	文化活動やそれに類する活動について認知度が低いところがあるため、周知することに取り組んで行く必要がある。 芸術鑑賞の町民参加による実行委員会の継続、町民活動支援センターの登録者数の増、町民文化展の出展者増に向けた取組は継続的に実施する。 文化協会をはじめとする関係団体と連携し、多くの町民が芸術、文化活動に興味を持ってもらえるよう取り組む。
(2) 施策の成果評価に対する2023年度事務事業総括			
①施策の成果向上に対して貢献度が高かった事務事業	芸術鑑賞会等開催事業	②施策の成果向上に対して貢献度が低かった事務事業	
③事務事業全体の振り返り(総括)	・町民との連携による文化芸術活動の充実 芸術鑑賞会等開催事業は、町民参加による実行委員会組織での企画・運営で実施されており、引き続き実施していくものとするが、多くの観客を求める等集客について検討が必要。 ・町民文化展の出展は上昇しているが、展示方法等の見直しを含めて関係者との協議を継続していく。 ・児童生徒の文化芸術振興 全国全道大会出場支援は、文化活動支援として浸透していることから、引き続き実施していく。 ・文化協会については役員の高齢化、加盟団体の減少等もあり停滞気味であると感じる。		

(3)「施策の方針」実現に対する進捗結果(計画策定時との比較)

担当課 評価	新型コロナの5類移行により、全体的な文化・芸術活動の再開されている。全道全国大会への支援等、子ども達の文化活動等の支援を継続していく		A	B	C	D	E
		進捗結果			○		

A: 実現した

B: (後期実施計画策定時と比較して)大きく前進した

C: (後期実施計画策定時と比較して)前進した

D: (後期実施計画策定時と比較して)変わらない又は維持した

E: (後期実施計画策定時と比較して)後退した

4. 施策を取り巻く状況変化・住民意見等

施策を取り巻く状況と今後の予測	・芸術鑑賞会の開催は、町民参加による実行委員会組織として企画・運営を担っていただき、評価を得ていることから継続していくが、集客部分も意識した事業展開も考えていく必要を感じる。 ・町民文化展は年に1度作品を見てもらう機会であり、やりがい・いきがいにつながるものであることから多くの方に参加していただけるよう取り組んでいく。 ・文化協会活動については、多くの町民が参加・鑑賞できる事業の実施支援と組織の強化に協力していく。 ・文化芸術活動への支援として、鑑賞会等の充実を図るとともに、大会出場助成を継続する。 ・フレンドリーコンサートの本格再開は、吹奏楽関係者に取って大変喜ばしいものであり、引き続き支援を行う。
この施策に対して住民・審議会・議会からどのような意見や要望が寄せられ、どのように改善したか。	・文化活動に関する公民館施設の利用料金減(シニア割引)希望。 ・町民文化展の内容を再考。(茶席の実演、大正琴演奏など、展示以外のメニューの検討) ・ふるさと歴史館の活用(各種講座、特別展示等の実施)。

5. 施策の課題認識(現状の課題、第5期総合計画後期実施計画期間において新たに取り組むべき課題)

・芸術鑑賞会の継続開催。町民参加の実行委員会組織からの提案事業を実施。 →様々な分野の鑑賞により町民の文化的思考の高揚に寄与する。 →集客面での検討も必要。 →「一流を見て、聴いて、学ぶ」事業を意識した講演内容 ・文化協会の活動内容などを検証し、魅力ある組織、活動への協議と事業実施への支援。 →組織体制の高齢化、人材の育成、役員のなり手不足。 ・指定管理者と連携した公民館講座の充実。 ・文化活動に必要な設備備品の計画的な整備。 ・ふるさと歴史館の各種講座、特別展示の実施等の事業充実。
--

6. 経営戦略会議(庁内評価)

評価	担当課評価同様に、前進したと評価する。		A	B	C	D	E
		進捗結果			○		
今後の取組に対する意見	5に記載の取り組みを進めてください。	A: 実現した B: (後期実施計画策定時と比較して)大きく前進した C: (後期実施計画策定時と比較して)前進した D: (後期実施計画策定時と比較して)変わらない又は維持した E: (後期実施計画策定時と比較して)後退した					

7. 総合計画審議会(外部評価)

評価	庁内評価同様に前進したと評価する。		A	B	C	D	E
		進捗結果			○		
今後の取組に対する意見	・他自治体で行っている体験型の文化展(生け花など)は反響があり、芽室町でも取り入れたらどうか。 ・学校単位で、楽器の演奏や人形劇など触れ合える機会を作してほしい。 ・文化活動を支援する取り組みが必要である。	A: 実現した B: (後期実施計画策定時と比較して)大きく前進した C: (後期実施計画策定時と比較して)前進した D: (後期実施計画策定時と比較して)変わらない又は維持した E: (後期実施計画策定時と比較して)後退した					

施策番号 2-2-2	施策名	スポーツしやすい環境づくり	基本目標	心豊かで輝く人と文化を育むまちづくり		
			政策名	地域文化の形成とスポーツ環境の充実		
	主管課	生涯学習課	課長名	江崎 健一	内線	451
	施策関係課					

1. 施策の方針と成果指標

施策の方針		対象		意図				結果	
町民がいつでも気軽に自由にスポーツできる環境づくりを進めます。		町民		・いつでも気軽に自由にスポーツできるようにする				健康で明るいまちづくりを実現する	
成果指標	説明	単位	策定時(基準値)	2023年度実績	2024年度実績	2025年度実績	2026年度実績	2026年度目標	
① スポーツしやすい環境であると思う町民の割合	住民意識調査	%	83.5 (R3)	79.8				95.0	
② 芽室町内の体育施設利用者数	利用実績	人/ 年	124,734 (R3)	165,505				180,000	
③ 高校生以下の初心者がゲートボールを体験できる機会	生涯学習課調べ (教室・講座数)	回/ 年	21 (R3)	30				64	
成果指標 設定の考え方		①住民満足度として非常に高い評価を得る数値とするもの。 ②前期計画で達成できなかった数値を目標とするもの。 ③事業機会を30%UPで推進しようとするもの。							

2. 施策の事業費

	策定時決算	2023年度決算	2024年度決算	2025年度決算	2026年度決算
施策事業費(千円)	272,237	2,112,308			

3. 施策の達成状況

(1) 施策の達成度とその考察			
①2023年度の成果評価(基準年との比較)	☒ 成果は向上した ☐ 成果は変わらなかった ☐ 成果は低下した	想定される理由	コロナも5類に移行するとともに、R5.7には温水プール、トレーニングセンターの改築により、スポーツする環境が拡充されるなど、施設の充実を通し住民の運動機会の促進につながった。
②第5期総合計画後期実施計画(2026年度)の最終的な目標達成状況	☐ 現状の取組の延長で目標は達成できる ☒ 現状の取組の延長で目標達成は難しいが、現行事業の見直しや新規事業の企画実施で目標達成は可能 ☐ 事業の見直しや新規事業の企画実施をしても目標達成は難しい	根拠(理由)	コロナ禍も終わり自粛傾向から解放され、特にトレーニング施設の利用者増が施設利用の実績を押し上げている。 『一流を見て・聴いて・学ぶ』事業として、陸上や元プロ野球選手の招致、コンサドーレ観戦などの新たな取組について好評を得ていることから、様々な競技の一流の招致に努める。 ゲートボールの普及については、本町が定める「挑戦の流儀」の達成に努めるとともに、R6年度発祥の地杯GB大会にブラジルGB連合から60人ほど来町するなど、国際的なつながりを含め、GBの普及を進めるものである。
(2) 施策の成果評価に対する第5期総合計画前期実施計画の事務事業総括			
①施策の成果向上に対して貢献度が高かった事務事業	トレーニング施設維持管理事業	②施策の成果向上に対して貢献度が低かった事務事業	
③事務事業全体の振り返り(総括)	・「一流を見て・聴いて・学ぶ」事業は、様々な競技を通して事業を実施するなど事業に対する一定の成果は得られているものと感じている。 ・社会体育施設については、R5年度にテニスコート、温水プール、トレーニングセンターの改築等施設整備を行い、住民のスポーツ環境の整備を行った。 ・町全体の施設整備や維持管理については、社会体育施設再整備構想に基づく計画的な実施に努める。 ・ゲートボールの再生については、特に若い世代への普及を重点的に進めるとともに、継続して取り組める環境の整備等について関係団体と引き続き連携・強化を進めていく。		

(3)「施策の方針」実現に対する進捗結果(計画策定時との比較)							
担当課 評価	コロナの5類移行、施設整備を進める中で特にトレーニングセンターの利用者が顕著であり、施設利用増につながっている。 ゲートボール再生に向けた取り組みについては、茅室高校生の日本一の明るい話題や中学生の授業の取り入れ、社会人GB大会新設の取組等、競技者増に向け、進めているところである。		A	B	C	D	E
		進捗結果			○		

A: 実現した
B: (後期実施計画策定時と比較して) 大きく前進した
C: (後期実施計画策定時と比較して) 前進した
D: (後期実施計画策定時と比較して) 変わらない又は維持した
E: (後期実施計画策定時と比較して) 後退した

4. 施策を取り巻く状況変化・住民意見等

施策を取り巻く状況と今後の予測	・「一流を見て・聴いて・学ぶ」事業における新たな可能性の創出(コンサドーレとの連携(バドミントン、カーリング)、コンサドーレと提携する他道内プロスポーツ団体(レバンガ北海道、ヴォレアス北海道)との連携。 ・日本ハムファイターズとの連携事業 ・社会体育施設再整備構想に基づく計画的な施設整備と適切な運営、維持管理の実施。 ・ゲートボール競技の普及「挑戦の流儀」の検証。R7更新に向けた関係機関との連携。 ・R6発祥の地大会におけるブラジルGB連合等の招致。 ・中学校部活動の地域移行への対応策検討。
この施策に対して住民・審議会・議会からどのような意見や要望が寄せられ、どのように改善したか。	・社会体育施設周辺環境整備(駐車場、トイレ、支障木)。 ・健康プラザの整備(人工芝の張替、屋上防水(雨漏り修繕)等) ・町営野球場の整備(コンクリート部分のラバー化、レフト側フェンスのかさ上げ) ・ゲートボール普及事業の強化、継続。 ・各種プロスポーツ団体と連携した事業の実施。 ・社会体育施設における適正な利用料金の設定。

5. 施策の課題認識(現状の課題、第5期総合計画後期実施計画期間において新たに取り組むべき課題)

・「一流を見て・聴いて・学ぶ」事業の推進 →コンサドーレとの包括連携協定に基づく事業の推進(サッカー教室、観戦ツアー、アスリート栄養指導等) →コンサドーレ関連団体との連携(バドミントン・カーリング、レバンガ北海道、ヴォレアス北海道等) ・社会体育施設再整備構想における計画的な施設整備。 →施設機能の維持に要する計画的修繕 ・GB再生計画「挑戦の流儀」(R3～R6)の検証とR7の更新に向けた取組。 ・少年団活動や部活の地域移行における指導者確保、総合型地域スポーツクラブの調査研究 →部活動の地域移行に関する取組 →地域人材の発掘・確保。

6. 経営戦略会議(庁内評価)

評価	担当課評価同様に「前進した」と評価する。		A	B	C	D	E
		進捗結果			○		
今後の取組に対する意見	5に記載の取り組みを進めてください。	A: 実現した B: (後期実施計画策定時と比較して) 大きく前進した C: (後期実施計画策定時と比較して) 前進した D: (後期実施計画策定時と比較して) 変わらない又は維持した E: (後期実施計画策定時と比較して) 後退した					

7. 総合計画審議会(外部評価)

評価	プール・トレーニングルーム等が評価されていることから、前進したと評価する。		A	B	C	D	E
		進捗結果			○		
今後の取組に対する意見	・「一流を見て・聴いて・学ぶ」事業の継続 ・部活動の地域移行に関して、時間が限られていて子どもたちのウォーミングアップが十分にできないことがないよう、安全を最優先にしてほしい。	A: 実現した B: (後期実施計画策定時と比較して) 大きく前進した C: (後期実施計画策定時と比較して) 前進した D: (後期実施計画策定時と比較して) 変わらない又は維持した E: (後期実施計画策定時と比較して) 後退した					

施策の外部評価(専門部会)意見への対応一覧

No.	施策番号	施策名	外部意見		担当課
6	2-1-2	社会教育の推進	意見	写生会等課外活動を行うことで、子どもたちが芽室の良さを発見できるのではないか。	生涯学習課
			対応方針	1 対応する ② 検討する 3 対応不可	
			対応事業名	少年教育活動運営事業	
			対応内容	学校授業において、写生の時間が設けられていることから、現段階で開催予定はありませんが、今後、キャンプ等の野外活動において、状況に応じて開催を検討します。	